

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

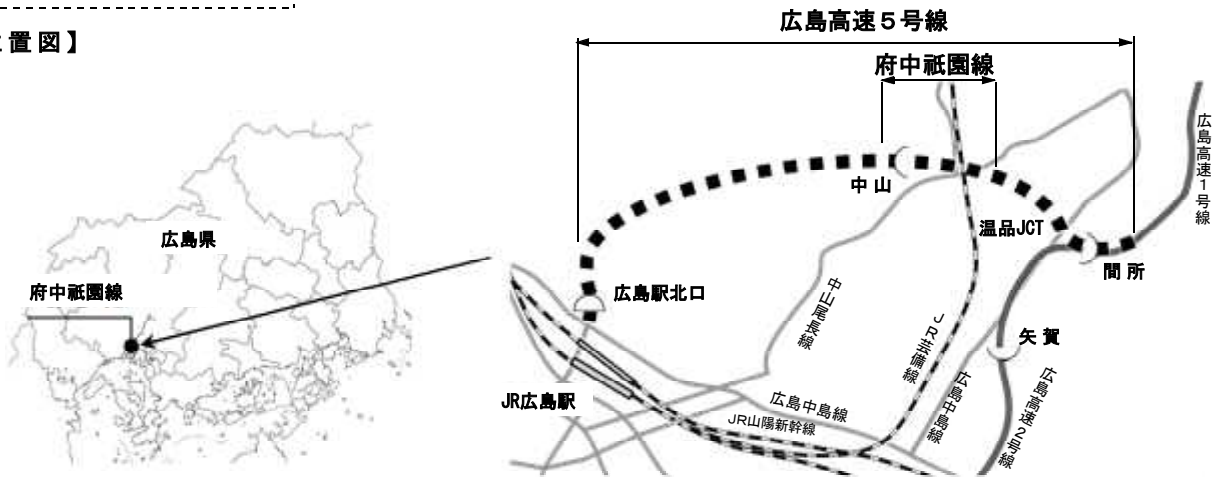
担当課：道路局 環境安全課

担当課長名：森山 誠二

事業名 地域高規格道路 ICアクセス <small>ふちゅうぎおんせん</small> 一般県道府中祇園線	事業 地方道 区分	事業 広島市 主体
起終点 自： <small>ひろしましひがしくなやまみなみにちようめ</small> 広島市東区中山南二丁目 至： <small>ひろしましひがしくなやまにしにちようめ</small> 広島市東区中山西二丁目		延長 0.8km
事業概要 広島高速道路 広島高速5号線（東部線I期）の中山ICへのアクセス道路であり、広島高速5号線と一体となり、広島駅北口への定時性の確保及び速達性の向上など、アクセス機能の強化を担う路線である。また、JR芸備線との交差点（中山踏切）を立体交差することにより、中山踏切の慢性的な渋滞解消、及び安全で円滑な交通体系の確立を図るものである。		
H12年度事業化	H10年度都市計画決定	H13年度用地着手
H25年度工事着手		
全体事業費	43億円	事業進捗率 約42%
		供用済延長 -km
計画交通量	約8,900～12,200台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.01 (残事業) 4.6 総費用 (残事業)/ (事業全体) 279/1,274億円 (事業費：257/1,253億円) 維持管理費：22/22億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 1,292/1,292億円 (走行時間短縮便益：1,078/1,078億円) (走行経費減少便益：157/157億円) (交通事故減少便益：57/57億円)
基準年	平成28年	
感度分析の結果 (残事業) 交通量：B/C=4.5～4.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=4.2～5.1 (事業費±10%) 事業期間：B/C=4.5～4.7 (事業期間±20%)		
事業の効果等 ・広島駅北口への定時性の確保及び速達性の向上などのアクセス機能が強化 ・主要渋滞箇所である中山踏切（JR芸備線）の立体交差化により渋滞が解消		
関係する地方公共団体等の意見 「社会資本未来プラン」（H28.3広島県策定）において、重点的に取り組む路線に位置付けられている。		
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。事業者は、引き続き、地域住民の理解と協力が得られるよう最大限努めながら、事業効果の早期発現を目指すこと。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成26年3月に広島高速3号線が全線完成し、計画延長29kmうち、延長25kmが供用済である。また、広島駅周辺では、複数の開発計画が進められ、商業施設、集合住宅など、様々な施設立地が進んでいる。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地進捗率約11%、事業進捗率約42%		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 順次工事の進捗を図り、平成32年度の完成に向けて取り組む。		
施設の構造や工法の変更等 建設発生土の有効活用を図るなどコスト縮減に努める。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変わらないため事業を継続する。	

事業概要図

【位置図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、広島高速5号線全体を対象とし、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。